細胞質内空胞がみられた顎下腺原発扁平上皮癌の細胞学的所見

古清水千咲[1]　大兼政良育[1]　寺内　利恵[1]　中野万里子[1] 山下　学[1]　水谷　謙一[1,2]
塩谷　晃広[1,2]　黒瀬　望[1,2] 山田　壮亮[1,2]
金沢医科大学病院病理部[1]，金沢医科大学臨床病理学[2]

背景：唾液腺原発の扁平上皮癌はきわめてまれで，予後は非常に悪い．今回われわれは，粘表皮癌との鑑別に苦慮した，細胞質内空胞の形成を伴う，右顎下腺原発の扁平上皮癌の 1 例を経験したので，細胞学的所見を中心に報告する．

症例：65 歳，男性．1 ヵ月前から右顎下部の腫脹を自覚し当院を受診した．穿刺吸引細胞診にて，ライトグリーン濃染性の細胞質を有した細胞と，オレンジG 好性の細胞質をもつ角化細胞がみられ，扁平上皮癌と診断されたが，細胞質内空胞を有する細胞が少数認められ，粘表皮癌との鑑別に苦慮した．組織学的に腫瘍は，中～低分化型扁平上皮癌で，粘液産生像はなかった．戻し電顕にて，拡張した小胞体が観察され，細胞質内空胞との関連性が示唆された．

結論：扁平上皮癌細胞では，時に細胞質内空胞がみられる場合がある．粘液産生細胞と見誤らないことが肝要である．